

授業概要

教育の歴史についてはさまざまな授業の中で触れられるが、時間の制約などの理由から、知識集約的なものになりがちである。そのような形で教授される歴史とは、さまざまなものを捨象した結果であり、いうなれば「点」である。しかし、実際の歴史は「線」や「面」である。もっと複雑であり、豊かでもある。

「点」にしか見えない歴史を「線」や「面」にするのに必要なのが、史料である。しかし、史料を読み解くには一定のリテラシーが必要で、史料の解説は時間を要するので、通常の授業で十分に触れることは難しい。

そこで、日本の近代以降の教育の歴史と、その過程で等閑に付されがちな幼児教育の歴史について、史料に触れることを通じて講義する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション：授業の方法や進め方
第 2 回	前近代の教育
第 3 回	近代の教育（1）：明治初年から学制の頒布まで
第 4 回	近代の教育（2）：教育令と諸学校令
第 5 回	近代の教育（3）：教育勅語の渙発と明治後期の教育
第 6 回	近代の教育（4）：大正新教育
第 7 回	近代の教育（5）：昭和初期から戦時下の教育
第 8 回	現代の教育（1）：戦後改革
第 9 回	現代の教育（2）：占領の終了といわゆる「逆コース」
第 10 回	現代の教育（3）：高度経済成長と教育
第 11 回	現代の教育（4）：1970 年代以降の教育
第 12 回	幼児教育の歴史（1）：明治期
第 13 回	幼児教育の歴史（2）：大正期・昭和戦前期
第 14 回	幼児教育の歴史（3）：戦後（1）（1960 年代まで）
第 15 回	幼児教育の歴史（4）：戦後（2）（1970 年代以降）
第 16 回	定期試験

到達目標

本科目は「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を講じる科目の選択科目として設定されている。歴史というものを体感するとともに、現在や未来を考える上で歴史を学ぶことの意味を考えられるようになってほしい。

履修上の注意

歴史に関する断片的な知識は、これまでの授業である程度は聞いてきているはずである。それをふまえて、史料を通じてその断片をつないでいく。毎回史料を読むことになるので、それを十分に承知した上で履修されたい。

予習・復習

予習：シラバスに掲げる項目（詳細なものを初回授業時に示す）について、参考文献やインターネットなどで確認しておく。

復習：講義内容を定着させるとともに、各授業時に示す参考文献にもあたってほしい。

評価方法

定期試験（100%・持ち込み可の論述試験を実施する）

テキスト

テキストは指定しない。毎回資料を配布する。